チック産業資材新聞　（第３種郵便物認可）　第９９０号

合樹協の賀詞交歓会

鳥井会長挨拶　産業発展の事業推進

合成樹脂工業協会（東京都千代田区鍛冶町一―一〇―四、丸石ビルディング、電話〇三―五二九八局八〇〇三番）の「平成24年賀詞交歓会」は、去る一月十三日(金)十六時から霞ヶ関ビル35階の阿蘇の間に関係者約一三〇名が参加して開催された。

挨拶を述べる経産省宮本昭彦化学課長

挨拶を述べる鳥井宗朝会長

当日は協会事務局の池田泰以氏の司会により鳥井宗朝会長（パナソニック㈱専務取締役）が来賓を初め参会の会員各位に謝意を表した後「当協会関係樹脂の昨年の生産出荷をみると、自動車やエレクトロニクス関連向けのフェノール樹脂と積層板は残念ながら対前年比一〇％以上のマイナスになった。一方、住宅関連のメラミン化粧板、接着剤、不飽和ポリエステル樹脂の分野は三～五％のプラス成長になった。

協会事業としての第61回ネットワークポリマー講演討論会は関西大学で日程を三日間に拡大して盛大に開催した。また、平成十九年度から続けている人材育成プログラムも、本年度は初めて女性にも参加してもらい一七名で二月七日に報告会が行なわれることになっている。積層板の規格が改正されるので、会員企業の不利益にならないよう関係団体のJPCAと協力して対処することにしている。今年度も以上の事業を継続して推進して行くので、会員皆様のご協力をお願い申しあげる＝要旨」と挨拶を述べた。

小川富太郎副会長（円内）の発声による乾杯風景

次に来賓として臨席した経済産業省製造産業局の宮本昭彦化学課長が「来年度は一八兆円の復興事業予算が執行されて具体的に立ち上がるので自動車や住宅関連の需要にも良い効果が出るものと期待している。ただ昨年来の非常な円高傾向が一過性のものでもないように思えるし、欧州の金融不安ともあいまって懸念している。国内市場は芳しくない状態にあるが、周辺には大きく発展している市場が広がっているので、そうした伸びている市場をしっかりカバーする努力をして欲しい。

長瀬寧次副会長（円内）の発声による手締め風景

昨年は税制改革等で国内の事業環境の改善に注力したが新年度も関係の皆様のご意見なども参考に産業発展を支援して行きたいと思うのでご協力をお願い申しあげる＝要旨」と挨拶を述べた。

続いて、小川富太郎副会長（住友ベークライト㈱代表取締役会長）が「昨年十二月に北の丸公園の科学技術館においてフェノール樹脂一〇〇年の記念展示会を開催した。ベークランド博士ゆかりの駐日ベルギー大使を初め多くの来賓と共に近郊の小中学生を招いてプラスチックについての知識を深めてもらった。これらの小中学生の中から将来プラスチックの世界に進む者が出ることを期待すると共にネットワークポリマー業界の益々の発展に微力を尽したいと強く念じた次第である＝要旨」と挨拶を述べたうえ、同副会長の発声による乾杯を行なって祝宴に移った。

定刻の十八時三十分、長瀬寧次副会長（日立化成工業㈱取締役会長）が「昨年の3・11では大地震と津波と原発事故に対する被災者の行動とか、事態の収拾に当った警察官、自衛隊、消防や自治体の関係者、さらには全国から駆けつけたボランティアの人達の行動、企業の現場で事業再開のために尽力した人達の姿をみて、日本人の凄さを実感した人が多いと思う。

国が衰退する要因として、①理想とか夢を失う、②物にしか価値を見出すことができず、心に価値を見出すことができなくなる、③自分達の歴史を見失う、ことが指摘されている。

これは企業にも言えることで、会社としての経営理念、ビジョンを明確に打ち出し、利益とか利潤とかの業績数値だけに目標を置くのではなく従業員とか顧客、地球環境の保護などにも目標をきちっと定めると共に自社の創業の理念とか現在に至る歴史を考えながら今後の事業経営を進めたいと考えたい＝要旨」と中締め挨拶を述べた後、同副会長の発声による力強い一本締めの手締めを行なって散会した。